

地方創生とは、地方を創って生かすこと

# 地方創生

地方創生

地方創生

地方創生

謹んでご提案させていただきます

合資会社 オフィスカワハラ  
活性化コンサルタント 川原徹夫

# 過去との違い？

現代とは格差社会

以前の手法は使えない

新しい方法とは??

# アベノミクスとは格差政策

- 都会と地方の格差

オリンピックは東京だけのもの？

- 都会の大学と地方大学の格差

大企業に入社できる確率の差もはっきり

- 都会労働者と地方労働者の差

収入の格差は明らか

この3つも問題是正が地方創生計画だと思います

# 格差を埋める新しい考え方

- 住むならわが地域がベストと、思わせる政策

働くために住む都会に対して、住むために働く地方との違いを演出

- 地方創生とは、地方が創る国際化です

中学生と高校生、大人と一緒に創る国際地方地域

- 自地域独自の「松下村塾」計画

「若もん・他所もん・馬鹿もん」が一緒に学ぶ場創りから

この点を理解してくれますと、地域の衰退は止められます

# 新しい手法とは？

- 時代を超えた“戦国時代”の始まり？

これからは、自治体同士の“戦さ？”が始まる

- 自地域を活かした、オリジナル創り

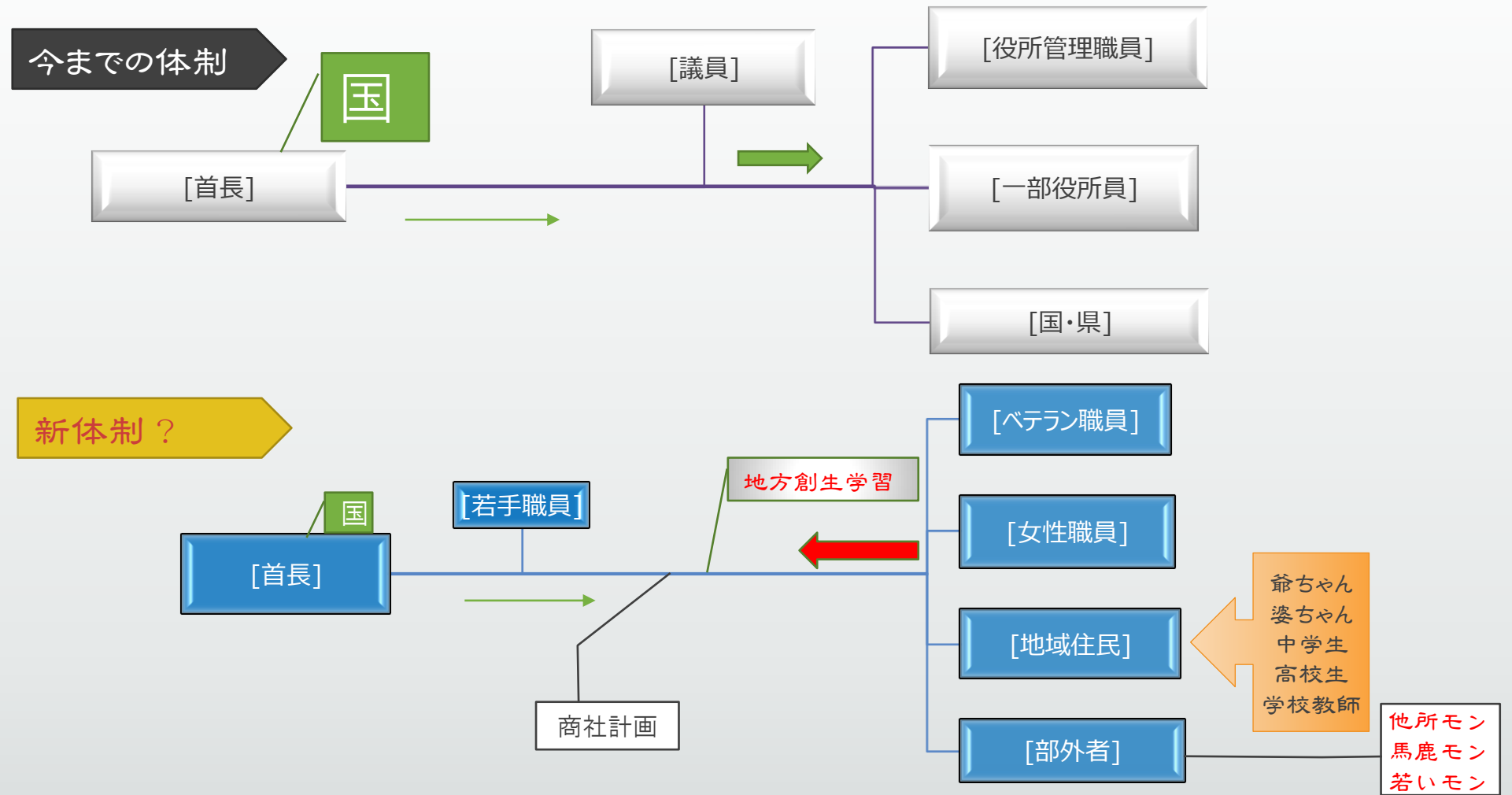
他地域参考OKですが、それをオリジナルに改善する意識

- 新しい体制で臨む創生計画

中・高校生、お爺ちゃんもお婆ちゃん、奥さん・オバさんも取り込んで世界へ発信

それ次第で、結果が明らかに変わります

# 新計画のチームの役割の変化



# 地方地域の人の育成法

- 我が国は今格差社会と申しました。その結果地方の優秀な人材の多くは都会を、都会の大学を目指してその後地方には戻ってまいりません状態。なぜなら地方の多くの大学は、都会の大学との明らかな差を付けられてしまっていますから。全国の若者が都会を目指したら、あぶれる若者（非正規社員）はきっと出る。そんな若者たちは、きっと都会の片隅に追いやられることは必定。この状態を放置していたら、地方にとって、とてももったいないお話だと思うんです。そこで地方のとるべき行動は、中学・高校でこの「**地方創生学**」とも言える学習を早期に施すべきと考えます。
- わたくしが申します「地方創生学」とは、地域再生とは大人だけが考えるものではなく、“**将来大人になる**”子供にとっても大事なこと。年寄りがいなくなり地域の人口が減ったら、その地域は間違いなく住み難くなってしまいます。地域再生の未来を大人だけで考えるのではなく、子供・若い人たちに分担してもらおうとするもの。地方の大学数は少ないですから、大学にそれぞれの地域の再生を委ねることはできません。しかし中高学校は確実にある、そんな若い人たちを地元で育成して活用しようとする考え方です。
- ではその「地方創生学」とはどんな学習なのか、要は自地域で暮らしたい・働きたいと思えるにはどうしたらイイのか？を大人と一緒に考えること。その具体的な学習内容とは子供なりに地域を調査し、自分たちにとってそこがどうなってくれば地元で暮らしたくなるかを学ぶ。それらを吟味し、県外に・海外に発信して人口増加計画へと導くものとお考え下さい。
- そこには具体的にアニメでもゲームの世界でも、自地域が県外の若者はもちろん、台湾や中国や韓国や、東南アジアの人たち。さらにアメリカ・オーストラリア、ロシアやヨーロッパの人たちなどに的を絞って、自地域売り込みをかける手段まで学ぼうとするものです。私見ですが我が国の現状を冷静に判断したら、多かれ少なかれ、そして遅かれ早かれ移民問題を避けては通れません。そんな時代の訪れを予測したら、子供も大人と一緒に地域での国際環境学習をしておかなければならないと思います。
- 地方創生学とは、算数・理科・社会・英語の応用と考えて下さい。それは多くの課外授業を含めた、我が国の新学習法＝バカロレア学習に重なる部分があることを付け加えさせていただきます。

# 計画遂行に伴う人材育成学習

## 中学生授業内容

課外授業の一環として、中学生が感じる地域の良いところ探しを実施する

## 中学生の美味しいもの探し

物産は本当においしいのか、大人だけの味覚を検証。若者ならではの味提案

## クールジャパン

全国共通のテーマは何か？アニメは？ゲームは？など、大人が？？のジャンルの意見提供

## 中高生の合同会議

感じたことを理科・社会の学習発表として提出。大人との付き合い方を学ぶ

## 高校生授業内容

中学生と共同して、自地域で海外に通用する資質があるかを見つける行動

## お年寄りとの協議

田舎料理の調査、地元料理が全国若者に合う味にできるかどうかを意見提供

## 英語で海外への検討

Netで・英語で海外へ売り込み可能？若者だけで、海外向けHP作成行動

## 大人との合同会議

中高生による企画立案、大人の承認が得られる内容に仕上げる

## 社会人指導 1

適正人材のチェックから、横断組織にて適任者を探して、準備を整える

## 社会人指導 2

商社設立、「若モン・他所モン・馬鹿モン」の組織立ち上げ計画

## 社会人指導 3

アンテナを張りって、真似るのではなくオリジナル案を

## 総合会議

国を説得できる内容に仕上げ、予算化を目指す



## こちらはあの、石破さんのご意見

- <http://www.bloomberg.co.jp/news/123-NIKJY96JTSEB01.html>
- 競争しろと言ってます、それは今国際化を進める大学=Super Global University計画と同じく、  
IY大学には毎年4.2億円の補助が。そして少しIY大学には1.7億円を10年先まで行うことが決  
められました。でもそうできない大学には、0円という厳しい現実があるんですネ。
- ですから各市町村の方々も、この意見に対応するから考えなきゃならない。まさにこの環境とは、我  
が国各地における“幕末維新”の時代？とわたくしには感じられるのですが

# 活性化コンサルタント・川原徹夫の意見

- 長生き・増加するだけの年寄りと、結婚・出産せず意識の若者との減少の綱引き状態？が続いています。この状態をそのまま何もせずに見過ごしていたら、いずれ地方の多くがなくなるでしょう。
- 地方消滅の要因は、人がいなくなること。下記は地方の学生が地元の大学に通う率

[http://www.gakutama.jp/local\\_metro/local.html](http://www.gakutama.jp/local_metro/local.html) ⇒ 10%台とはとても心配になります

⇒地方の優秀な学生が都会の大学に行ってしまうことは、そのまま都会で就職してしまって故郷に戻ってくることはないですから、地方衰退の原因に。だからの

<https://www.facebook.com/MahaloStyleConnection/posts/651786498270962>

ってこと。

とにかく人が（労働者）どんどんいなくなり、残された年寄りが亡くなったら空き家だけに。その後は地方地域の、消滅過程が進むということになるんですネ。

じゃそれ止める方法は？ ⇒ 自地域に人増やすことしか考えられません ⇒ それ考え実行するのが、地方創生です

じゃどうやったらイイ？ ⇒ そこを石破さんが各自治体考えて ⇒ 消滅させたくなければやらなきゃならない

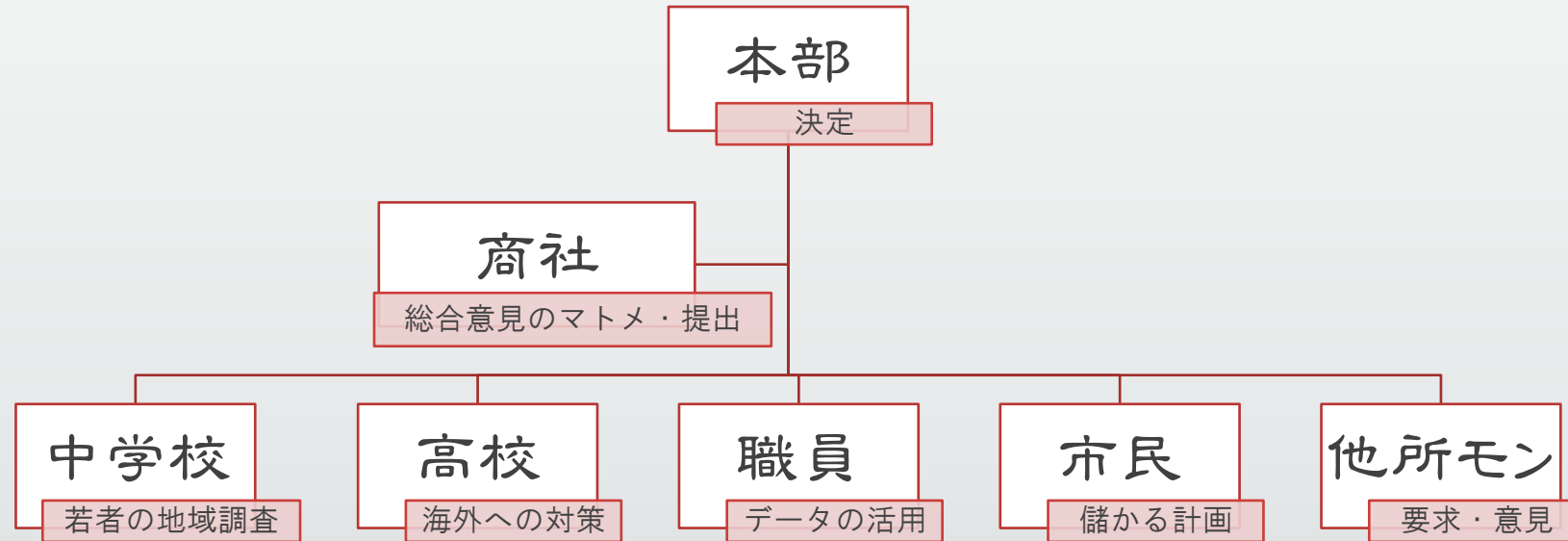
それいつやるの？ ⇒ 「今でしょ」、としか言えません ⇒ じっとしてるだけじゃダメなことなんですネ

# 活性化コンサルタント・川原徹夫の意見Ⅱ

- **各地域で考える創生の根拠とは何か？**⇒それはきっと、商業・工業・農業・林業・漁業、そして観光・歴史などあらゆる根拠を精査して考えることが求められています。しかしそのそれぞれの資質を吟味するだけで、創生の根拠を考え出すのは難しいように思えます。なぜならこれまで、各自治体は多かれ少なかれその行動をとってきたのですから。ではなぜ今まで各地域の活性化を実現できなかったか？それは過去の手法を繰り返してきたからとしか言えません。
- **最初に考えるべきは人材育成**⇒地方創生実現には、「他所もん・馬鹿もん・若もん」が必要と語られます。それなぜかは、今までそれは「地元モン・常識モン・年配モン」でしか事は推進されてきませんでしたから。だからなんです、どこの地方も「自然豊かな」の同じキャッチフレーズばかりのパフレットになっていた。また他地域参考＝物真似行動が基本だったため、同様同質の行動がとり続けられていたと思えるのです。
- **そこで考えるべきは**⇒時代の変化を認識したら、新しい人材構成でこれからの創生計画・創生行動をとってみる気はありませんか。我が国のクールジャパン計画の基本は、アニメ＝ドラゴンボール・ドラえもん・ガンダム。そしてゲーム＝ドラゴンクエスト・マリオブラザーズ・ファイナルファンタジーなどを文部科学省／経済産業省／外務省3省が予算取って推進し始めました。はたしてこの子供の遊び思考に、現職自治体職員の方々は追従できるでしょうか。ここにこれからの地域活性化＝地方創成計画は、新しい人の参加を促すことが不可欠になることがお判りでしょう。

# 川原徹夫からのご提案 一地域一商社計画

地域の発展計画には、一地域に一商社が必要と思えます  
なぜならこれからの地域の創生計画には  
行政マンを中心とした  
企画マン・制作マン・サービスマン・営業マンのプロの集合体  
がなければ事の完遂は難しいと思いますから。



この商社力＝外からの意見を取りまとめる力の発揮具合で  
その地域の創生計画が進められると断定できます

# 川原徹夫から

- わたくしと一緒に、貴地域の地方創生計画を進めませんか。ただしわたくしは、東京生まれの「他所もん」です。その他所もんが22歳で茨城県に移り住み、今年70歳になります58年間を見てきた本県の印象とは、「茨城県は宣伝下手(+0+)」
- そのこのところを長年僭越ながら指摘させて頂いたのですが、大人の皆さんはなかなか変わって頂けなかった。そこでそんな大人の方々に、このクールジャパンの時代を認識して若者の意見に耳を傾け、新しい意識でこれからを進めて頂けるお手伝いをしたいと考えた次第です。
- だからとわたくしが活性化コンサルタントとは申せ、何もかも考えてお客様にご提供するって時代じゃない。ただ他所もんの意見少しだけ聞いて頂き、あとは地域の大人・お年寄りが若者と意見を戦わせて、他地域に勝る発想して頂きたいと思っただけなのです。
- 本資料貴所にとりましてご興味なかった場合は、どうぞ《削除》して下さい。なぜならこれ《売り込み》ではなく、あくまで《ご提案》でありますから。
- そんなわたくしは現在水戸在住、売り込みならばお伺いするところでしょうが、そうでないので資料はお送りしてお終い。お忙しい方の元へお邪魔しても、ご迷惑でしょうから。でももしご質問、その他ありましたら、送付状にありますMailへお越し下さい。そこでなら、お暇の時だけやり取りができると思いますので。それでは失礼します。



# 付録

## 女子プロゴルファー・川原由維の行動

**茨城県は野菜もゴルフ場も大丈夫だぞ!**

女子プロ・川原由維がチャリティゴルフ大会を開催!

日本大震災救援活動  
茨城県は大丈夫

「このままでは茨城が危ない。私も、あなたも、みなさんも、少しでも多くの「グリーン」を茨城に届けたい。チャリティゴルフ大会を開催する。また、チャリティゴルフ大会を開催する。また、チャリティゴルフ大会を開催する。」

日本大震災「チャリティゴルフ大会」茨城県は大丈夫

次回以降開催については川原のホームページで<http://www.yutani.com/kawayui.html>

日本経済新聞 1992年(平成4年)4月20日 月曜日

新核商圏の発展

中心地混在が阻害 誘客へ商業環境つく

商店街の移転

1992年(平成4年)4月22日 水曜日

新核商圏構想

幹線の奥を最大利用 大型店中心に商業区配置

茨城新聞

進学計画

今年訪米の商業部長

新核商圏構想

お父さんは以前から活性化活動を続けてまいりました

# 川原徹夫はこんな人

1945年 東京生まれ1967年 東京の中堅商社・オーマツト入社、日立営業所に。1975年米国企業、バレナイトモドコ社転職。その間北欧、アメリカ・東南アジアにて活動。それぞれの国で、企業・地域の合理化＝活性化業務を学ぶ。1980年「活性化研究所」設立、地域・企業・個人の活性化業務＝コーチングを展開。茨城県内市町村の活性化プラン立案・提供多数。水戸市商店街の活性化案など、その他各地同様な活性化策を提供（新聞資料）。

笠間市長・笹目宗兵衛氏と大型施設計画にてヨーロッパ歴訪、高萩市長・大久保氏と森林地域活性化施設計画のため各地視察。牛久市長・大野氏と東京のベッタウン構想にて協力、など茨城県内首長との業務遂行多数。

1991年バブル経済崩壊後の就職難の時代、茨城新聞社主催の協議会に参画、県教育課／県経営者協会／人材派遣業／ハローワークと共に協議を重ね、その議案書を県に提出。その後県内全域の高校就職担当の教師を集めてセミナー多数。また各校の高校生に就職指南授業を展開（別紙新聞）

2003年 娘・川原由惟がプロゴルフテスト合格。その後は娘個人の活性化行動＝プロコーチとして10年を過ごす。2008年社名を合資会社 オフィスカワハラに改称、娘の試合に付いて北海道から沖縄までを活性化コンサルタントの目で見つて研究。

2011年茨城県産物の風評被害訴え行動を、プロゴルファーの娘と実施（資料別紙）。同時に地方のゴルフ場・練習場・ショップの状況から、我が国景気の低迷の長期化を予測。その低迷を原因として安倍内閣の行革行動、特に学習指導要領改革に注目し、その対策・研究を進める。その過程で新たな国の地方活性化指針、「地方創生計画」を確認。その一案として、アメリカ留学にて「日本人の英語学習法」を研究して帰国した息子と共に、地方の英語教育改善計画を活用するプランを立案。現在その提案書を、地方の活性化策として各教育委員会に提供中。また地方の活性化策として、儲からないままの農業から儲かる農業事業への研究を開始。現在そのプランも完成。現在に至る。

# 付録

女子プロゴルファー・川原由維は茨城県産農産物の風評被害撲滅活動を進めています



華麗な？スイング



知事さんと

英語学習コーディネーターの川原甲斐は地域の英語学習力アップ活動をしています

## Immersion Baccalaureate 各学習法をご存じですか？



バカロレア学習の  
現状↓です  
(Benesse資料)



**2020年度から我が国の大学入試試験方法が  
大きく様変わりするのをご存知ですか**

大学が国際化を進める過程で  
2018年までに200のバカロレア高校が選ばれ  
それに準じた学習が小・中学校でも実施されます

私は今、小中高校の現役の先生方  
及び将来教師職を希望する学生に、  
バカロレア学習・イマージョン学習の学び方をご提供しています

連絡先: 携帯090-9961-9362 / オフィス029-225-2101  
•Email kai\_itchy@yahoo.co.jp  
ホームページ↓ 経歴 ↓どちらもQRコードでご覧いただけます

